

# 岩見沢市における少子化対策

## ～デジタル活用など産学官連携による取組み事例～

2022年10月3日

情報政策部長 黄瀬信之

北海道大学 産学・地域協働推進機構 客員教授

総務省 地域情報化アドバイザー

農林水産省 農業農村情報通信環境整備推進体制準備会委員

北海道 Society5.0推進会議委員

## 少子高齢化や人口減少をはじめ、 地域コミュニティの持続性確保に大きな「社会的課題」が存在

- 市民生活面：教育や医療に関するサービス格差等、買い物や交通など日常生活上の利便性  
インフラ維持や災害非常時における即応性確保・・・
- 経済活動面：農業従事者の減少や消費志向の変化等など農業の持続性確保・・・



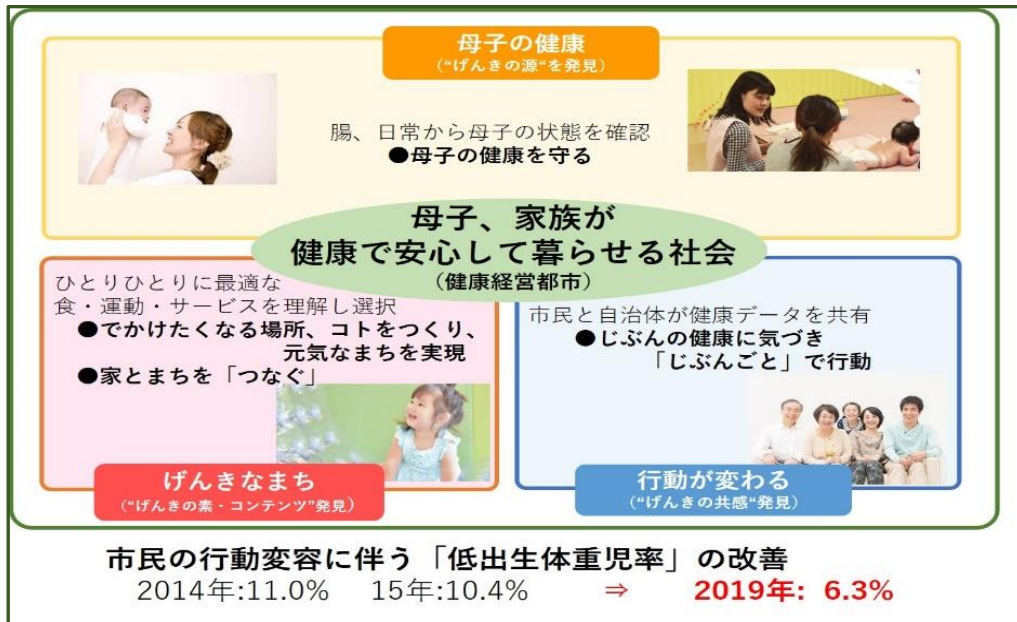
面積：481.02km<sup>2</sup> 行政面積の42%が農地  
人口：77,194人  
世帯：41,225世帯（22年8月末現在）  
高齢化率：約37.25%



### まちの将来像（ビジョン）

「誰もが活躍できる地域社会 スマート・アグリシティ」  
～デジタル技術や地域資源・特性を用いて「地域の未来創造」にチャレンジ～

## 地域の未来（将来像）に向け 目的を共有・共感する産学官が連携し、バックキャスト型で施策を展開



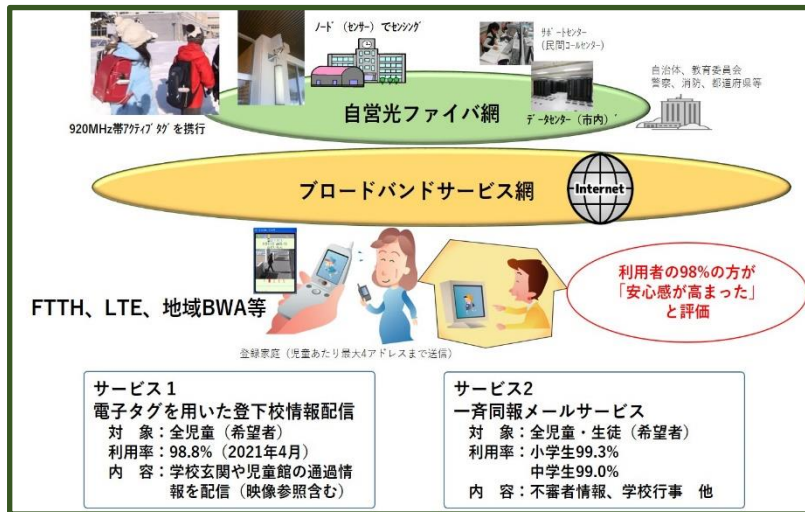
健康・少子化対策プロジェクト（北海道大学COI&NEXT）



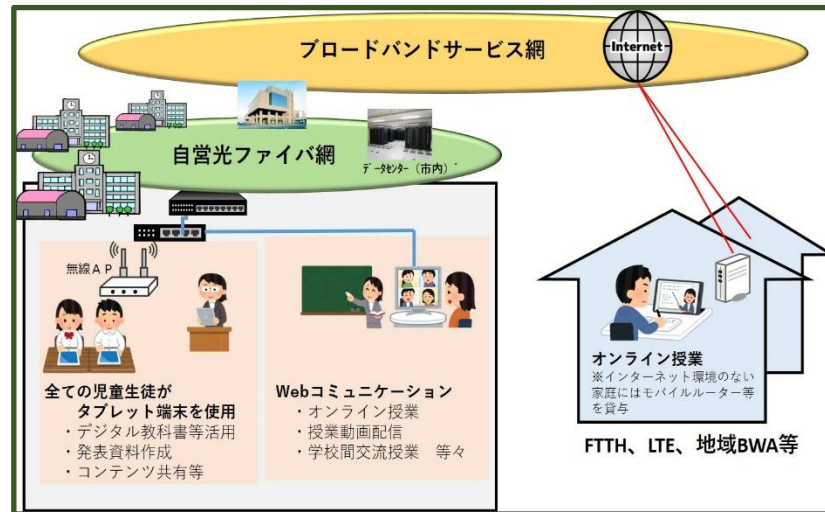
スマート農業関連プロジェクト  
（北海道大学大学院農学研究院、NTTグループ等）

# (広義な)デジタルを活用した少子化対策

## ●児童見守りシステム



## ●遠隔学習、GIGAスクール



## ●在宅就業(テレワーク)

ICT関連資格に関する研修会開催など地域特性を活かした新たな就業機会創出に向けた取組み(2015年度～)

2015年度～2020年度実績

- 研修参加: 395名
- 就業者数: 251名(求職活動中144名)
- 就業形態: 通勤型 42名
- 在宅型209名
  - 在宅コールセンター
  - 模擬試験採点
  - BPO業務 等々

子育て中の女性や通勤が困難な方(障がい者、介護、高齢者等)が活躍できる環境として期待

## ●健康コミュニティ(健康経営都市)

**母子の健康**  
("げんきの森"を発見)

腸、日常から母子の状態を確認

●母子の健康を守る

**母子、家族が健康で安心して暮らせる社会**  
(健康経営都市)

ひとりひとりに最適な食・運動・サービスを理解し選択

- でかけなくなる場所、コトをつくり、元気なまちを実現
- 家とまちを「つなぐ」

市民と自治体が健康データを共有

- じぶんの健康に気づき「じぶんごと」で行動

**げんきなまち**  
("げんきの森"コンテンツ"発見)

**行動が変わる**  
("げんきの共感"発見)

市民の行動変容に伴う「低出生体重児率」の改善

2014年:11.0% 15年:10.4% ⇒ **2019年: 6.3%**



# 健康・少子化対策の取組みと成果例

文部科学省・JSTによるCOIプロジェクト参画(2015年度～)

母子を中心に家族が健康で安心して暮らせる社会を目指し、  
市民が健康で元気に成長できる地域モデルを構築

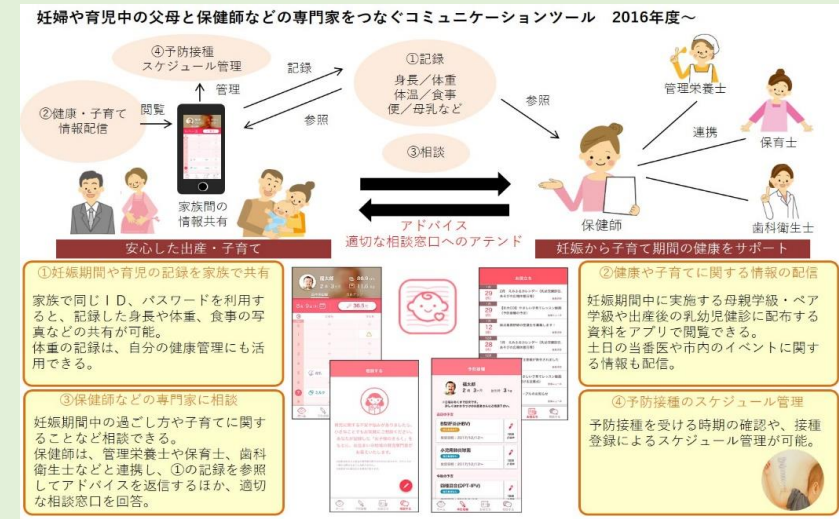


「気づき」に基づく市民の行動変容による「低出生体重児率」改善  
2015年:10.4%⇒2019年: 6.3%

- 第9回プラチナ大賞 (総務大臣賞)
- 第3回日本オープンイノベーション大賞 (日本学術会議会長賞)
- 第10回健康寿命をのぼそう！アワード (厚生労働大臣優秀賞)

受賞

## ○家族健康手帳アプリ

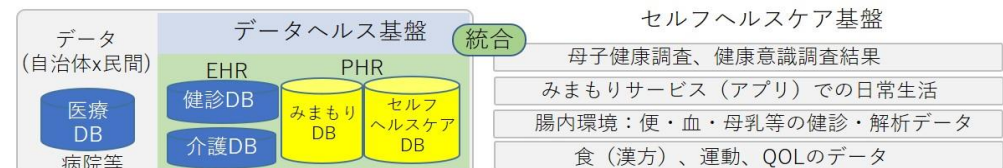


## ○健康データPF (EHR+PHRに基づく健康予報)

人とまちの健康情報を統合、解析・予報のアルゴリズムを構築するなど、  
行動変容に活用するデータヘルス基盤の社会実装を推進

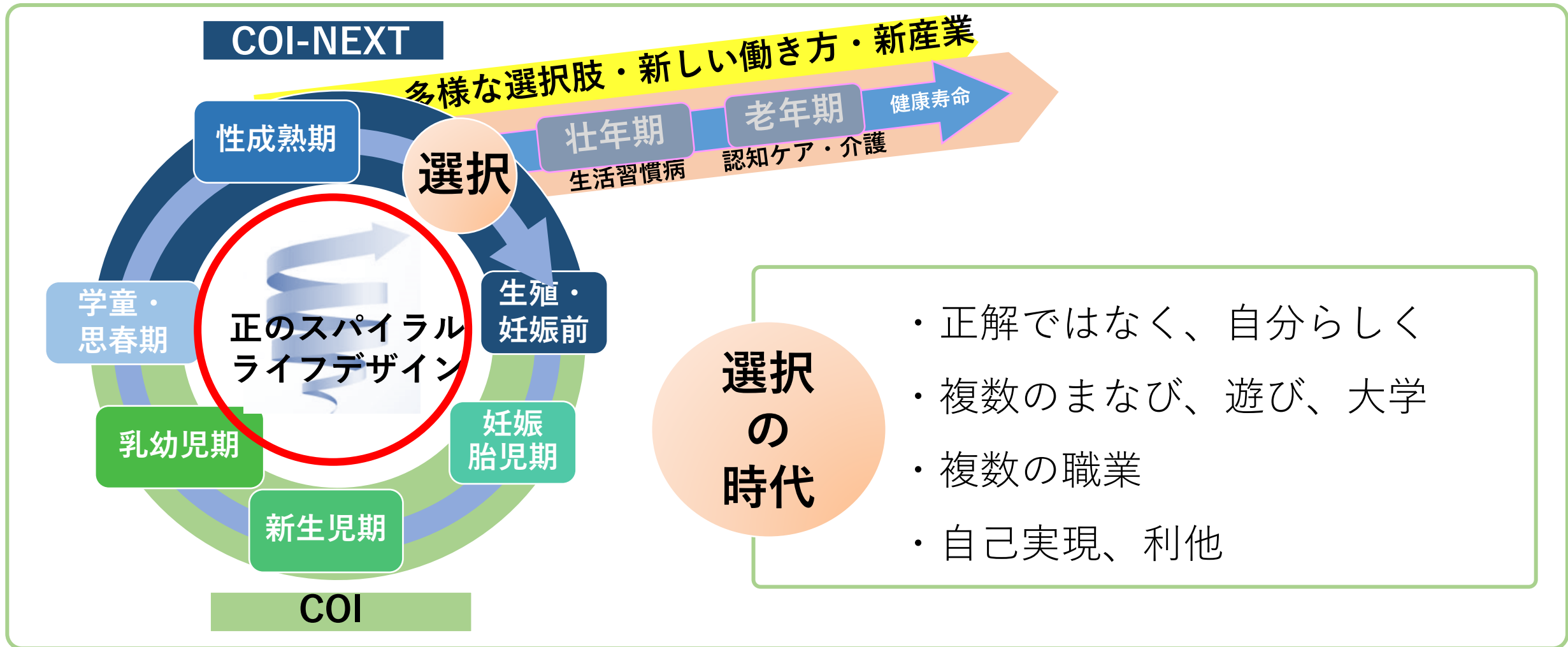
- ・協会けんぽとの協調のもと市民の74%のレセプト、健診データを統合 (自治体初)
- ・健康予報として、見える化システムを構築 (他地域に先行、展開可能モデル)
- ・母子等の研究開発データ、アプリからの生活データを統合

### データ・ヘルスケアプラットフォーム



\*PHR, EHR : Personal Health Record, Electronic Health Record

選択肢を増やし、ひととともに自分らしく生きる **笑顔あふれる社会をつくる**



# 市民との共有を進める現状認識

	日本	北海道	札幌市	岩見沢市
出生率*	1.34	1.21 (worst2)	1.09 (政令指定都市最下位)	1.1

\* 合計特殊出生率：2020 厚生労働省、札幌市資料ほか参照

## 1. 根幹となるべきファクトの浸透が遅れ 社会システムの前提になっていない

- ・妊孕力は、年齢とともに下がる
- ・不妊は、男性に半分の原因がある

## 2. カップル、夫婦、個人のライフプランが 思ったように描けず、実現できていない

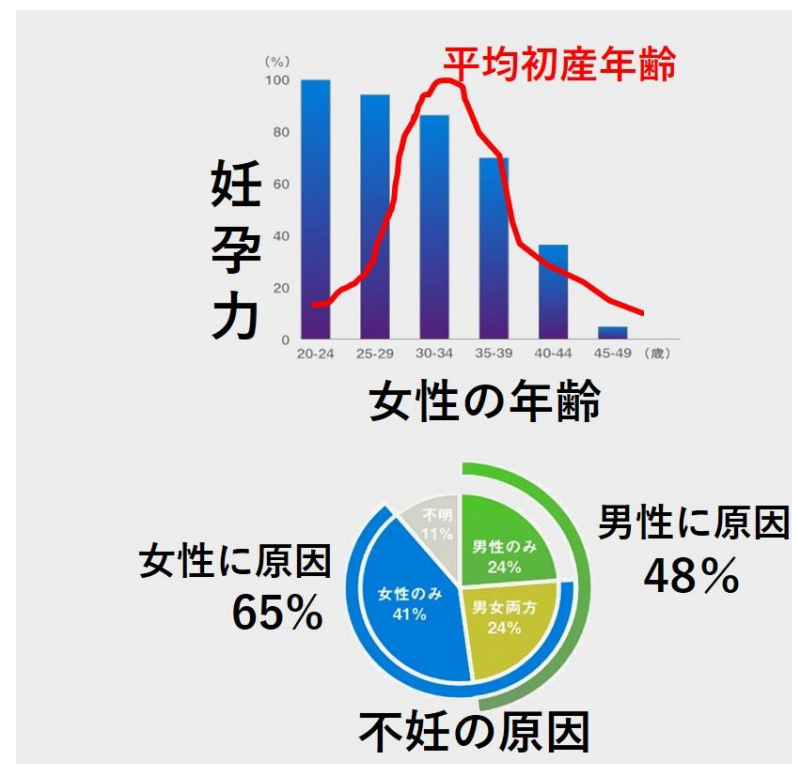
- ・夫婦の5割が不妊を心配、3割が不妊治療実施
- ・日本は、体外受精 世界1位(15人に1人)

## 3. 女性の活躍が進んでいない

- ・ジェンダーギャップ 121位/153国

## 4. HPV(子宮頸がん)ワクチン接種も遅れ

- ・男子の接種率：豪(88%)、米(64%)

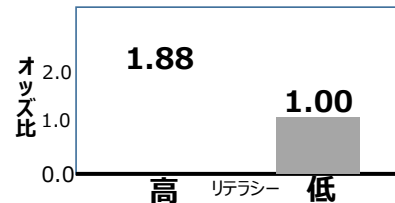
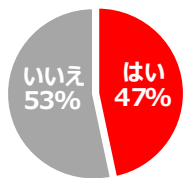


# ファクトに基づく少子化対策例 ～コンセプションケアの実装～

## 望んだ時に妊娠

- ヘルスリテラシー（こころとカラダの理解）が高いほうが望んだ時に妊娠できている\*1

望んだ時に妊娠できた？ リテラシーが高い：約2倍

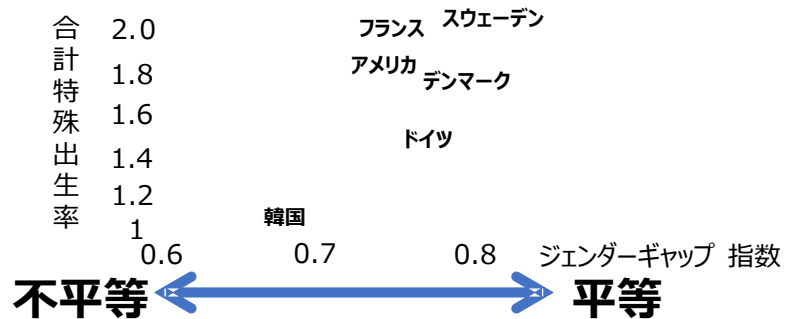


### 現状

1. 根幹となるべき**ヘルスリテラシー**が浸透していない
  - 妊孕力（妊娠する力）は、高年齢で急激に下がる
  - 不妊は、男性に半分の原因がある
2. **カップル、夫婦、個人のライフプラン**が描けていない
  - 相手に求める結婚意識は、楽しさ、価値観が上位
  - 日本は、妊娠補助医療数 世界1位

## 合計特殊出生率の向上

- ジェンダーギャップ指数が高い（平等）と合計特殊出生率が高い\*2



### 現状

3. **女性の活躍**が進んでいない（不平等）
  - ジェンダーギャップ（不平等）121位/153国
  - 岩見沢のジェンダーの理解 30%と低い
4. 北海道は **男女平等比率が最下位**\*3

## 日本版プレコンセプションケア

### 自分課題の解決

結婚や妊娠を「望む」が増える  
望んだ時に妊娠ができる可能性を高める

### 社会課題の解決

“ジェンダー格差”の解消  
“固定的な男女・家族意識”を解消

\*1:日本医療政策機構働く女性の健康増進調査2018

\*2:内閣府 政策統括官 資料2020(WEI資料から作成)

\*3:東レ「男女平等が進んでいる都道府県(調査)2015

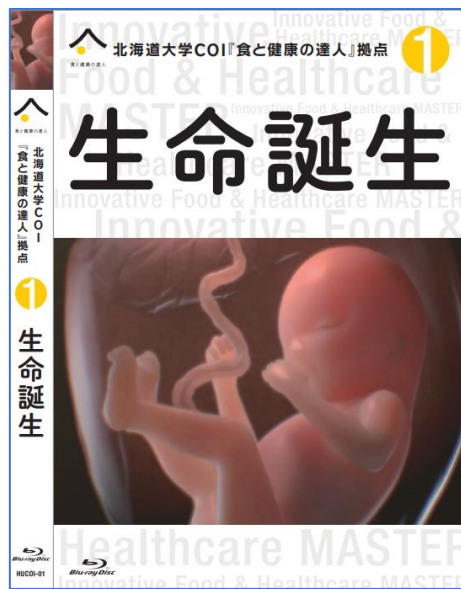


# 取り組み例 学校等で生命・プレコンのActive Learningをつくっていく

高校で、“サイエンスとして学べる”実験授業を開始



## 世界最先端の科学映像 (協力NHK)



## 3D 実物大モデル (協力Node Medical株式会社)



●少子化対策は「社会課題」と「自分課題」の克服が重要  
「気づきに基づく市民の行動変容」と「地域社会の環境づくり」

- ・行政だけでは困難～産学官などの連携
- ・市民と目的（ビジョン）を共有し、バックキャスト思考で
- ・デジタルの活用は有効・最適な手段のひとつ